

水稻技術情報 NO-11

令和元年7月1日
J A 営農支援課

『生育旺盛 早めの中干しを』

1. 水稻の生育状況(あきたこまち)

前回の調査日以降、気温が高めで推移したことや久しぶりの降雨等もあり、いずれの品種も生育旺盛の様相となっております。

「あきたこまち」の葉齢(5/14植え9.6葉~5/30植え7.6葉)からみた平均の生育は、平年比では『2~3日程度の遅れ』、『草丈やや短め』となっておりますが、**田植えの早い圃場では9葉期を迎え、中干しの時期となっております。**また、もち品種等では茎数が過剰気味の圃場も見られておりますので、各自の圃場状態を見回り、以下を参考に今後の管理を行なってください。

水稻定点調査圃の生育状況(6月28日)

品種(平均)	草丈(cm)		茎数(本/m ²)		葉齢(葉)		SPAD	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
あきたこまち	36.0	41.3	350	388	8.6	9.2	44.6	45.4
(慣行)	33.9		314		8.6		44.0	
(側条ペース等)	37.8		380		8.6		45.1	
前年比	111%		123%		+0.7 葉		103%	
平年比	87%		90%		-0.6 葉		98%	
たつこもち	40.2	42.8	313	403	9.0	9.0	45.5	45.6
きぬのはだ	41.5	42.6	576	418	9.2	9.4	43.2	42.7
ときめきもち	35.2	39.8	417	395	8.8	8.9	44.2	43.5

2. 今後の技術対応

1) 中干し

田植えの早い圃場や田植時に側条肥料を使用している圃場では、もち品種等で過剰分げつ気味の圃場も見られております。圃場を確認しながら**葉齢9葉を目安に中干し・溝切り**に入ってください。

【中干しの効果】: ①無効茎の抑制 ②根の健全化 ③田面の硬化 等

2) 倒伏対策(出穂25~10日前)

中干し後でも「葉色が濃い」「茎数過剰」等により倒伏が心配される圃場は、つぎの薬剤で対応してください。

ロミカ粒剤1成分 [2~3kg/10a、散布後5日間は湛水状態]

3) 病虫害防除

【葉いもち病】

オリゼメート等の防除をされていない圃場では、7月中旬又は初発時に「コラトップ粒剤」を散布する等の対策をしてください。

【イナゴ】

本年はイナゴの発生が多く見受けられますが、稲の食害が見られる場合は、畦畔沿いを主体につぎの薬剤で防除してください。

トレボン粉剤DL: 3kg/10a、トレボン乳剤: 1000倍~2000倍

※ 圃場でばか苗が見えた場合の抜取りにご協力ください。